

森 晴秀教授 略歴及び著作目録

- 1933年生れ
- 1956年3月 神戸大学文学部卒業
- 1956年4月 京都府立河守（現、大江）高等学校教諭（図画、世界史も担当、但し無免許）
- 1958年4月 大阪大学大学院文学研究科修士課程入学
西宮市立西宮高等学校定時制課程専任講師
- 1960年4月 大阪大学大学院文学研究科博士課程進学
大阪府立今宮高等学校定時制課程教諭
- 1962年4月 高野山大学文学部英文学科専任講師
- 1963年3月 大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
- 1964年4月 神戸大学教養部専任講師（英語担当）
- 1965年9月 UCLA 大学院、オクスフォード大学留学（～1966, 8）
- 1966年9月 ケンタッキー大学客員助教授（～1967, 6）、日本学科創設、比較文学、日本語・日本文学講義
- 1968年4月 神戸大学教養部助教授
- 1978年12月 文学博士（大阪大学）
- 1979年4月 神戸大学教授（文学研究科、教育学研究科兼任）
- 1982年9月 ニューハンプシャー大学客員教授（～1983, 6）、大学院：20世紀英文学、学部：比較文学、日本語・日本文学講義
- 1987年4月 神戸大学、西洋文学担当に配置換え
- 1993年3月 神戸大学退職（59歳）
- 1993年4月 広島女学院大学文学部教授
- 1995年4月 同大学院担当。文学研究科長、学院・大学評議員（～1998, 3）
- 1997年4月 同大学院博士後期課程論文指導担当
- 1999年4月 同大学特任教授
- 2000年4月 京都女子大学文学部契約教授、大学院博士後期課程論文指導担当
- 2007年3月 同退職

学会シンポジウム講師 (以下、日時、テーマ等すべて省略)

日本英文学会 (ロレンス、ジョイスなど)、日本ウルフ協会、日本ロレンス協会、
日本文体論学会、世界鬼学会、ほか

非常勤講師

大阪大学大学院、文学部、教養部。海星女子大学文学部、神戸女学院大学文学部、
園田学園女子大学文学部、神戸学院大学

集中講義

愛知県立教育大学、高知女子大学、大阪女子大学、松山商科大学、香川大学、
岡山大学、海星女子大学、広島女学院大学大学院、大谷女子大学大学院

市民講座等

朝日カルチャーセンター、大阪、神戸。神戸市民大学、芦屋市民大学、ケンブリッジ
大学夏季セミナー (書道実技)、芦屋市民センター絵画教室 (これのみ現職)

特別講演等

大阪成蹊女子短期大学、立命館大学、神戸親和女子大学、就実女子大学、大阪外国語
大学 (留学生別科、日本語、日本文化)、神戸大学公開講座、日本ハーディ協会、
日本プロンテ協会関西支部会、1986 D. H. Lawrence International Conference,
UK、京都女子大学公開講座、京都女子大学英文学会、広島女学院大学公開講座、
日本文体論学会、ロータリークラブ、世界鬼学会、地球温暖化防止京都会議議長
団対象 (美山町1997)、日本プロンテ協会、ほか

学会役員

1974～現在	日本文体論学会理事、常任理事
1995～2000	日本ロレンス協会副会長、会長
1994～2003	世界鬼学会副会長、会長、現在特別顧問
2001～2004	テキスト研究学会代表

画歴

1993年以降、新制作展に150号油彩、毎年出品、個展隔年で開催
ウィーン、ハプスブルグ宮廷芸術会員

業績等一覧

著書

1. 『言語と文体』（「視点と文体をめぐって」）共著、大阪教育図書、1974
2. 『イギリス小説とその周辺』（「ロレンスにおける曖昧の本質」）共著、大阪教育図書
1977
3. 『作品と読者』（「D.H.ロレンスの文体と印象派絵画」）共著、前田書店、1977
4. 『ロレンスの舞台——長編小説の文体と構造』単著、山口書店、1978 博士学位論文
5. 『イギリスの現代小説』（「Mrs.Dalloway 覚え書き」）共著、東海大学出版会、1988
6. 『文体論の世界』（「各国の文体論、イギリス、アメリカ」「文献解題、イギリス、アメリカ」
「文献リスト、イギリス、アメリカ」）共著、日本文体論学会編、三省堂、1991
7. 『D.H.ロレンス『狐』とテキスト』（「『狐』の文体」）共著、国書刊行会、1994
8. 『風景の修辞学』（「はしがき」「情景描写の思想と文体——G.チョーサーからM.ロー
リーまで」「各章解題」）編著、英宝社、1995
9. 『ロレンスと現代』共著、国書刊行会、1995
10. 『言語の空間』（「作者の介入と作品の統一」）、共著、広島女学院大学大学院編、1999
（第76回日本文体論学会特別講演原稿）
11. 『過去40年間の文体論』（「日本における文体研究」）共著、日本文体論学会編、三修
社 2004

編集解説

A Conversation on D.H.Lawrence, Univ.of California, Los Angeles, 1974

編注

『D.H.ロレンス』（単著）山口書店「現代英米文学セミナー双書11」（小池 滋、米田
一彦、金関寿夫、森晴秀編集）1980

学術論文

1. 「ロレンス『虹』の文体」学園論叢 No.1、神戸大学、1956、5、31
2. 「*The Rainbow* の構造——イメージの発想及び錯綜と展開」*Osaka Literary
Review*, No.2, 大阪大学大学院、1962、4、1
3. 「矛盾と焦燥の表現——*Women in Love* の人物とイメージ」*Prelude* No.6、1962、4、1

4. 「芸術の崩壊——『エアロンの杖』と『カンガルー』の思想と表現」 *Osaka Literary Review* No.3,大阪大学大学院、1963、7、10
5. 「ロレンスの戯曲に関する覚え書き——『ホルイロイド夫人』『一触即発』『ダビデ』」 *Prelude* No.7, 1963,11,5
6. Lawrence's Imagistic Development in *The Rainbow* and *Women in Love*, *E L H*,Vol.31, No.4, The Johns Hopkins Univ. USA, (1964,12)、修士学位論文；カリフォルニア大学フォーク財団留学賞受賞
7. 「D.H.ロレンスの表現形式」 *Kobe Miscellany*,No.3, 1965,2,15
8. 「D.H.Lawrence: *The Plumed Serpent*、文体論研究、No.17、日本文体論学会、1965、6
9. 「失われた文明——ロレンスにおける喜劇性」 *Kobe Miscellany*, No.6, 1972,12
10. 「文学作品にみる英語の変容」 *英語研究*、研究社、Vol.9, No.6, 1973,12
11. 「神話と現実の狭間——D.H.ロレンス『翼ある蛇』」 *近代* No.48、神戸大学、1974、2、20
12. 「思想構造とパラグラフ構造——ロレンスとウルフ」村上至孝教授退官記念論文集、英宝社、1974、4、10
13. 「文体と文体研究」（シンポジュームの記録）共著、文体論研究、日本文体論学会、1974、12、25
14. 「上昇と下降——ロレンス、フォースター、ウルフ、ハクスレー等における認識の型について」 *近代* No.50、神戸大学、1975、7
15. 「孔雀のゆくへ——*The White Peacock* 論」 *Kobe Miscellany* No.7, 1975,8,31
16. 「キュテラへの侵入——*The Trespasser* 論」論集 No.16、神戸大学、1975、12、31
17. 「D.H.ロレンス『虹』」 *英語青年* Vol.126,No.7、研究社、1980、11
18. 「Thomas Hardy の文体——*Tess* から *Jude* へ」山川鴻三教授退官記念論文集、英宝社、1981、4、1
19. 「チャタレー夫人の性と俗」 *近代* No.57、神戸大学、56、12、20
20. 「アメリカの大学における文章表現の授業——日本の大学への適用をめぐって」 *一般教育学会誌* Vol.8, No.1, 1986,5
21. 「ヴァージニア・ウルフ——俳句——そしてジョルジュ・スーラ」 *ジャポネズリー研究学会会報* No.6、ジャポネズリー研究学会、1987、11
22. 「剥製人間と昆虫の標本——エリオット、ロレンス、そしてリーヴィス——」 *英語青年* Vol.134, No.8, 1988,11
23. 「D.H.ロレンスの喜劇性——新発見の長編、*Mr.Noon*(1920 - 21)をめぐって」 *Kobe Miscellany* No.14,神戸大学、1989、3、20
24. 「遠近法——絵画と文学、あるいは幾何学について」 *Kobe Miscellany* No.20、平成

6,5,20 (神戸大学最終講義原稿、1993,2)

25. 「ヨーロッパの鬼」世界鬼学会誌 2、1996、9、7
26. 「作者の介入と作品の統一」『言語の空間』広島女学院大学大学院、1999 (第76回日本文体論学会特別講演原稿)
27. 「『雪国』覚え書き——2種の鏡と色彩の対象」
杉本龍太郎教授古希記念論文集、大阪教育図書、2000ほか

翻訳：

1. D. H. ロレンス『ミスター・ヌーン』集英社、1958、6
2. アール・マイナー「連歌は「リリック」か、「ナラティヴ」か——比較文学的一考察」
国文学、Vol.31,No.4, 1986,4ほか

書評：

1. 西村孝次『ロレンス』20世紀英米文学案内5、研究社。宮崎芳三他編『日本における英国小説研究書誌』風間書店、1971
2. 小田基『20年代・パリ、あの作家達の青春』研究社、1978。宮崎他編、前掲書1978 (50枚)
3. 入江隆則『見者ロレンス』講談社、1974、宮崎他編、前掲書1980、(45枚)
4. 鉄村春生『想像力とイメージ——D.H.ロレンスの中・短編の研究——』開文社、1959、
『英文学研究』日本英文学会、Vol.LXII,No.2,Dec. 1985
5. 金谷展雄『D.H.ロレンス論——光と闇の交錯』南雲堂、1988
『英文学研究』日本英文学会、Vol.XVII, No.2,Jan. 1991
6. 井上義夫『薄明のロレンス——D.H.ロレンス I』小沢書店、1992
『英文学研究』日本英文学会、Vol.LXX,No.2,Jan. 1994
7. Pamela J. Transue, *Virginia Woolf and the Politics of Style*. 『ヴァージニア・ウルフ研究』第4号、日本ヴァージニア・ウルフ協会、1987
8. Takeo Iida, *D.H. Lawrence*. Yamaguchi Shoten, 1989.
The D.H. Lawrence Review, Univ. of Delaware, Vol.24, No.3, 1992
9. Masako Hirai, *Sisters in Literature: Female Sexuality in Antigone, Middlemarch, Howards End and Women in Love*. Macmillan 1998) 『D.H.ロレンス研究』日本ロレンス協会、No.9,1999
10. Takeo Iida, *The Reception of D.H. Lawrence Around the World*. 九州大学出版会、1999、
『比較文学』第43巻、日本比較文学会、2000

雑:

1. 「ロレンスとの対話」『英語とエッセイ』大学社、1965
2. 「国情を反映する英語指導法——イスラエル、南ベトナム、ナイジェリア、コロンビア、スーダン、韓国等の関係者の聴き取り」 *English and Pedagogy* No.5,三省堂1966
3. "Articles on D.H.Lawrence: A Bibliography.1916-1965" *Kobe Miscellany*,No.5,1968
4. 『神戸を語る えとらんぜ』(編著)神戸新聞出版センター,1982,
5. 二宮尊道著『ロレンスとエリオット』(第1部「ロレンス」解題)研究社出版1982.
6. 『日本の教育をよくするために』(編著)山口書店、1992 (コナミ「上月教育財団」資金(1,500万円)によるアメリカ、フランス、イギリス、スペイン、タイ、マレーシア、インドネシア、オーストラリア等の、小学校、中学校、高等学校、大学、文部省等の調査報告書。(1987～1989))
7. 『駒子の唇——絵と文』山口書店、1993 (単著)
8. 文化交流誌『道』山口書店、編集主幹 1978 - 1980

(「英語青年」「新聞」書評欄、「新聞記事」等すべて省略)